



JAPAN HERITAGE

日本遺産

3つの日本遺産のまち鶴岡

3 Japan Heritages Sites, Tsuruoka
文化・伝統を語るストーリー GUIDE BOOK

出羽三山「生まれかわりの旅」

サムライゆかりのシルク

北前船寄港地・船主集落



山形県鶴岡市

Tsuruoka City, Yamagata Prefecture

鶴岡市には、日本遺産に認定された3つのストーリーがあります。

自然と信仰が息づく 生まれかわりの旅

山形県の中央に位置する出羽三山は、羽黒山が「現世利益を叶える現在」、月山が高く秀麗な姿から「祖霊が鎮まる過去」湯殿山のお湯の湧き出る巨岩が「生命の誕生を表す未来」をそれぞれ象徴しています。

江戸時代に庶民の間で「生まれかわりの旅」として広がった三山巡りは、日本古来の山の自然と信仰の結び付きを今に伝え、心身を潤し新たな活力を与えます。



羽黒山

サムライゆかりの シルク

鶴岡市は、日本最北の絹産地。旧庄内藩士たちが刀を鋏に替えて開拓した松ヶ岡開墾場から発展し、養蚕から絹織物までの一貫工程が今も残る国内唯一の地です。六十里越街道沿いの田麦俣集落には暮らし・養蚕が集約された多層民家が現存し、市の中心には日本唯一の精練工程を行う明治時代創業の工場など、保存継承された絹産業の歴史、文化と先人の努力と成果、近代化の原風景を体感できます。



松ヶ岡開墾場

北前船寄港地・ 船主集落

日本海や瀬戸内海沿岸には、山を風景に取り込み、小路が張り巡らされ、豪壮な商家・船主屋敷が建つ港町が点在しています。社寺には奉納された船の絵馬や模型が残り、京などに起源がある祭礼が行われ、節回しの似た民謡が唄われています。

荒波を越え、動く総合商社として巨万の富と繁栄をもたらした北前船の寄港地・船主集落は、時を重ねた異空間として今も人々を惹きつけています。



鶴岡市加茂地区

奈良

710年

平安

794年

鎌倉

1185年

室町

1338年

江戸

1603年

明治

1868年

大正

1912年

昭和

1926年

出羽三山「生まれかわりの旅」

サムライゆかりのシルク

3つの日本遺産 時代の流れ

北前船寄港地・船主集落



文化・伝統を語るストーリー

「日本遺産 (Japan Heritage)」

地域の歴史的魅力や特色を通じて、日本の文化や伝統を語るストーリーを文化庁が認定するものです。ストーリーを語るうえで欠かせない有形無形の文化財群の魅力を国内外へ発信することで、地域の活性化を図ることを目的としています。

城下町つるおか 歴史ものがたり

鶴岡市は、全国でも最も多く3つの日本遺産が認定された地域で、出羽三山の「山」、歴史ある城下町の「里」、そして豊かな自然を持つ「海」が融合する魅力的な場所です。神秘的な山々、伝統的な町並み、海の幸に恵まれたこの地は、豊かな自然と深い歴史が共存し、訪れる人々の心に残る体験を提供します。

3つの日本遺産マップ（構成文化財）

鶴岡市内には、3つの日本遺産それぞれのストーリーに関する文化財が数多く点在しています。もちろん単体で訪れても、鶴岡の豊かな歴史・文化に触れていただくことができますが、それぞれの背景にある3つの歴史ものがたりを理解したうえで巡っていただくと、より楽しみが広がります。

3つの日本遺産すべてに触れることのできる“ゴールデンルート”で、鶴岡の歴史ものがたりにどっぷり浸かってみてはいかがでしょうか。

北前船寄港地・船主集落

- 1 加茂港周辺の町並み
- 2 石名坂家住宅主屋・蔵 (国登録)
- 3 浄禅寺の釣鐘と山門
- 4 善寶寺五百羅漢堂 (国登録) と燈籠群
- 5 致道博物館所蔵の北前船関連資料群
- 6 春日神社の船絵馬群と狛犬
- 7 郷土資料館所蔵の北前船関連資料群
- 8 龍宮寺の本堂と水舟
- 9 少林寺の山門
- 10 加茂坂峠道
- 11 雛人形・雛菓子

3つの日本遺産ゴールデンルート

サムライゆかりのシルク

- 1 松ヶ岡開墾場 (国史跡)
- 2 松ヶ岡本陣
- 3 松ヶ岡蚕室群
- 4 松ヶ岡蚕業稲荷神社
- 5 松ヶ岡開墾士住宅 (市有形)
- 6 旧遠藤家住宅 (県有形)
- 7 旧風間家住宅 丙申堂 (重文)
- 8 風間家旧宅 表門 (国登録)
- 9 風間家旧宅 西側板塀 (国登録)
- 10 風間家旧別邸 無量光苑釈迦堂 (国登録)
- 11 風間家旧別邸 土蔵 (国登録)
- 12 風間家旧別邸 表門 (国登録)
- 13 風間家旧別邸 中門 (国登録)
- 14 風間家旧別邸 北門 (国登録)
- 15 風間家旧別邸 板塀 (国登録)
- 16 旧渋谷家住宅 (重文)
- 17 旧西田川郡役所 (重文)
- 18 旧庄内藩主御隠殿
- 19 庄内藩校致道館 (国史跡)
- 20 羽前絹練株式会社

自然と信仰が息づく生まれかわりの旅

- 1 羽黒山
- 2 羽黒山の随神門
- 3 羽黒山の石段
- 4 羽黒山のスギ並木 (国特別天然記念物)
- 5 羽黒山の爺スギ (国天然記念物)
- 6 羽黒山五重塔 (国宝)
- 7 羽黒山南谷 (県史跡)
- 8 羽黒山齋館 (市有形)
- 9 羽黒山三神合祭殿 (重文)
- 10 羽黒山蜂子神社 (市有形)
- 11 羽黒山正善院黄金堂 (重文)
- 12 手向の宿坊街 (鶴岡市歴史的風致維持向上計画重点区域)
- 13 松例祭の大松明行事 (重要無形民俗)
- 14 出羽三山の精進料理
- 15 羽黒山の峰入り
- 16 羽黒古道
- 17 清川関所跡
- 18 月山 (国天然記念物)
- 19 月山神社
- 20 八方七口
- 21 月山神社出羽神社湯殿山神社摂社 月山出羽湯殿山三神社社殿 (旧日月寺本堂) (重文)
- 22 湯殿山神社 (旧本道寺)
- 23 本道寺代参塔群 (町史跡)
- 24 湯殿山神社 (旧大日寺)
- 25 大日寺代参塔群 (町史跡)
- 26 湯殿山
- 27 六十里越街道
- 28 旧遠藤家住宅 (県有形)
- 29 大日坊仁王門 (県有形)
- 30 大日坊の皇壇スギ (県天然記念物)
- 31 注連寺七五三掛桜 (市天然記念物)



出羽三山 「生まれかわりの旅」

A-2

自然と信仰が息づく 生まれかわりの旅

～樹齢300年を超える杉並木に包まれた2446段の石段から始まる出羽三山～
山形県の中央に位置する出羽三山の雄大な自然を背景に生まれた羽黒修験道。

羽黒山は「現在」、月山は「過去」、湯殿山は「未来」をそれぞれ象徴し、この三山を巡ることは、江戸時代から庶民の間で「生まれかわりの旅」とされ、地域の人々に支えられて今に伝えられています。杉並木に囲まれた石段、急斜面を登った先に開ける眺望、裸足の足の裏に感じる湧き出るお湯の温かさなど、自然を実感しながら心身を癒す再生の旅です。

羽黒山



A-2

1 羽黒山 (標高414m)

羽黒山は、開祖・蜂子皇子が現在の世を生きる人々を救う仏(聖観世音菩薩)を祀ったといわれ、出羽三山の中で最も村里に近い、人々の現世利益を叶える山であったことから「現在の世を表す山」といわれている。



A-2

2 羽黒山の随神門

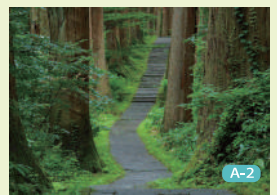
羽黒山参道の入り口。かつての「仁王門」(現在、仁王像は正善院黄金堂に安置)。



A-2

3 羽黒山の石段

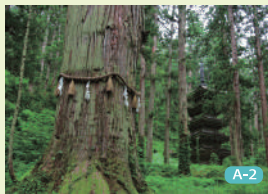
随神門から山頂まで2446段。江戸時代初期に13年かけて今の形に整備された。



A-2

4 羽黒山のスギ並木

参道には樹齢350年から500年の杉が立ち並ぶ。石段と同じく江戸時代初期に整備された。



A-2

5 羽黒山の爺スギ

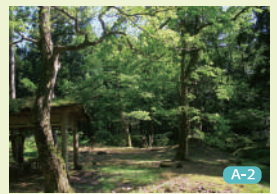
樹齢1000年以上ともいわれ、羽黒山で最大かつ最古の杉。



A-2

6 羽黒山五重塔

平安時代に創建。応安5年(1372)再建。屋根は柿葺(こけらぶき)の美しい塔。国宝。



A-2

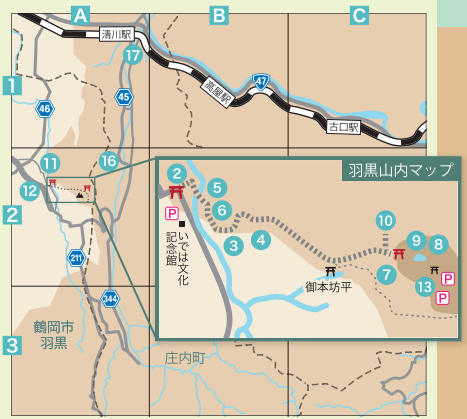
7 羽黒山南谷

「三の坂」から400m右、「奥の細道」の芭蕉が泊まった別当寺別院の跡「南谷」。羽黒山の隠れた名所。



15 羽黒山の峰入り

一般参詣者が三山を巡る「夏の峰」。修験者となるために7日間山に籠る「秋の峰」、羽黒山麓の手向(とうげ)地区の二人の修験者「松聖(まつひじり)」が100日間参籠修行する「冬の峰」。満願の日にあたる大晦日に「松例祭」が行われ、修行で得た験力を競う。



羽黒山エリア(構成文化財)



8 羽黒山三神合祭殿

旧羽黒山寂光寺。羽黒山・月山・湯殿山の三神を祀る。中世の構造を残した茅葺木造建築。鏡池からは平安時代の銅鏡出土。



9 羽黒山蜂子神社

出羽三山の開祖・蜂子皇子を祀る。



10 羽黒山斎館

「三の坂」上の旧華蔵院。三山参拝の参籠や精進料理を味わえる食事処。「冬の峰」の参籠所となっている。



14 出羽三山の精進料理

精進料理をいただき身を清め、山へ向かう準備を整える。



11 羽黒山正善院 黄金堂

現存する羽黒山内の建築物で最も古く、三十三体の聖観世音菩薩が安置されている。



12 手向の宿坊街

羽黒山の門前にあり、信仰と修験道の伝統を守り、宿坊として参拝者を受け入れている。



13 松例祭の大松明行事

開祖蜂子皇子が疫病を鎮めたという故事から「ツツガムシ」に見立てた大松明に火を放つ行事。

どこで食べられるの？

出羽三山の精進料理は、羽黒山山頂にある斎館、羽黒山麓の手向(とうげ)宿坊街で召し上がることができます！

【お問合せ】
羽黒山斎館
(0235-62-2357) ほか



Question

Q1. 羽黒山頂の鏡池からは、何枚の銅鏡が出土したのでしょうか？

※正解は次のページに掲載。

「生まれかわりの旅」のはじまり羽黒山

出羽三山とは、羽黒山(414m)、月山(1,984m)、湯殿山(1,500m)の総称。月山を中心に、羽黒山と湯殿山が連なる美しい山々です。羽黒山は、約1400年前に蜂子皇子によって開かれた自然信仰に仏教や密教が混じり生まれた修験道の聖地です。山・田・海の神々の峰、精霊の山、豊かな実りを祈願する、出羽三山の「生まれかわりの旅」の始まりの山です。



16 羽黒古道

蜂子皇子が修行したと伝わる鉢子集落の登山口から羽黒山山頂に至る古道。



17 清川関所跡

最上川舟運で来た参拝者は、ここで上陸して羽黒山へ向かった。



ダイジェスト紹介映像
出羽三山「生まれかわりの旅」
<https://youtu.be/WFmZL-VuccdE?si=jeD-nPF-C6vYNF7ZT>



出羽三山「生まれかわりの旅」

月山

18 月山 (標高1,984m)

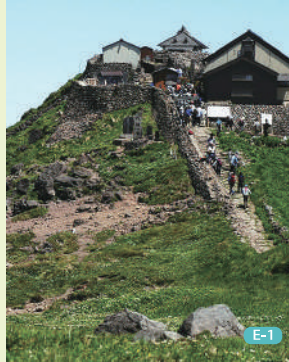
高く秀麗な姿から太古の昔より信仰を集め、「祖霊が鎮まる山」として「過去の世を表す山」と言われています。高山植物が咲き乱れる八合目弥陀ヶ原は、神秘的で美しく、極楽浄土を彷彿とさせます。

「月」と「黄泉」の清浄なる世界

E-1

19 月山神社

山頂に祀られている祭神は月読命(つくよみのみこと)。以前は阿弥陀如来が祀られていたが、どちらも死後の世界を司る存在。毎年8月13日に行われる「柴燈祭(さいとうさい)」では柴燈護摩を焚き、先祖を里に送る。



E-1



E-3



F-3

20 八方七口

月山に登拝する本道寺口等の八つの登り口。かつてはそれぞれに宿坊街があった。

A-2 D-4 E-3 F-3 G-1 H-1

21 月山神社出羽神社湯殿山神社撰社 月山出羽湯殿山三神社社殿

「岩根沢口」に建つ月山・羽黒山・湯殿山の三神を祀る神社。東北最大級の木造建築。(旧日月寺本堂)



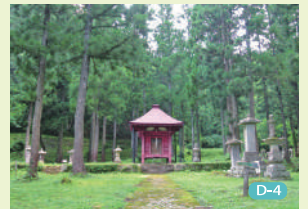
E-3



E-3



D-4



D-4

22 湯殿山神社 (旧本道寺)

「本道寺口」の別当寺跡には、宿坊20軒と代参塔群があり、参拝者で賑わった。

23 本道寺代参塔群

参拝困難者が住職に代参を頼み、寄進額の一部で「代参塔」が建立された。

24 湯殿山神社 (旧大日寺)

「大井沢口」にある別当寺跡。道智上人の整備した行者道で、参拝者で賑わった。

25 大日寺 代参塔群

11基の代参塔が往時を偲ばせる。



月山エリア(構成文化財)

羽黒山おすすめコース



月山おすすめコース



湯殿山

圧倒的な神秘の実感

26 湯殿山 (標高1,500m)

全てのものを生み出す山の神「大山祇命」が祭神として祀られる湯殿山は、「未来の世を表す山」といわれています。山中で修行を行う山伏が、生まれかわりを果たす聖地でもあります。



H2~I4



H-2



G-1



H-2

27 六十里越街道

かつて出羽三山へ向かう人々で賑わい、街道沿いには宿坊や茶屋が建ち、参拝客を迎えた。

29 大日坊仁王門

湯殿山の行者修行場。即身仏真如海上人を祀り、仁王門には風神雷神、その奥に仁王像が鎮座。

31 注連寺七五三掛桜

「七五三掛口」の注連寺境内に咲く樹齢200年のカスミザクラ。弘法大師がこの木の下で修行したといわれている。



H-2

28 旧遠藤家住宅

出羽三山への参拝客を迎えた宿坊があった田麦俣地区の多層民家。古くは、寄棟作りの茅葺で、養蚕のために、高破風(たかはっぽう)兜造に改築された。(サムライシルク⑥参照)

30 大日坊の皇壇スギ

「大綱口」の大日坊に立つスギの巨木。根周り8m、高さ27m、推定樹齢1800年。

詳しくは...》出羽三山「生まれかわりの旅」推進協議会

事務局：山形県県民文化芸術振興課

☎ 023-630-2284

【公式WEBサイト】<https://nihonisan-dewasanzan.jp/>



湯殿山おすすめコース

スタート!

注連寺
七五三掛桜

1

六十里
越街道

2

大日坊の皇壇スギ

3

注連寺へ戻る

4

湯殿山
レストハウス

5

湯殿山
神社

6

湯殿山参籠所泊

7

1日プラン

3つの日本遺産をめぐる旅

スタート!

1 羽黒山五重塔

2

松ヶ岡でランチ

3

致道博物館

4

湯田川温泉

5

大山まちあるき

6

加茂まちあるき

7

善寶寺
五百羅漢堂

1泊2日プラン



湯殿山エリア(構成文化財)

刀から鋤へ 旧庄内藩士の物語り

サムライゆかりのシルク 日本近代化の原風景に会うまち鶴岡へ

明治維新後、旧庄内藩士が刀を鋤に替えて開拓した松ヶ岡開墾場に、日本最大の蚕室群が建てられました。鶴岡を中心とした庄内地域は、国内最北限の絹産地として、今も養蚕→製糸→製織→精練→染色・プリント→縫製までの一貫工程が残る国内唯一の地です。

また、六十里越街道の田麦俣集落に、四層構造で暮らし・養蚕などが一つの建物にまとまった多層民家が現存し、国内唯一の精練工程が市中心部にある明治創業の工場で行われるなど、絹産業の歴史・文化の保存継承と新たな絹の文化価値の創出にも取り組んでいます。

松ヶ岡開墾の歴史



戊辰戦争後、幕府側についた庄内藩は、中老の菅実秀の指導の下、約3000人の旧藩士が地域一円からの支援を受け、3年間かけて311haの桑畑を開墾しました。明治8年から10年には、10棟の大蚕室が建設され、蚕室の屋根には、解体された鶴ヶ岡城の瓦が使用されています。

殖産興業と絹織物

明治新政府は、不平等条約の撤廃を目指し、欧米諸国に追いつくことを急務とし、近代化と産業育成に尽力しました。絹産業の拡大と製品輸出は、貿易による外貨獲得や国力強化につながりました。松ヶ岡は日本最北の絹産地の中心であり、殖産興業に貢献した地域の一つでした。



① 松ヶ岡開墾場

明治維新後の明治5(1872)年、旧庄内藩士3千人が刀を鋤に持ち替え、広大な土地を開拓し、産業振興に貢献した歴史を伝える松ヶ岡開墾場。広大な開墾地の中心地には開墾本部として使われた「本陣」や瓦葺上州島村式の三階建の「大蚕室」5棟が現存する。

Question

Q2. 松ヶ岡を開墾する旧藩士たちを激励・訪問した旧藩主酒井忠発が酒とともに差し入れたとされる食べ物とは？

※正解は次のページに掲載。

国指定史跡 松ヶ岡開墾場

MATSUGAOKA CRAFT PARK 松ヶ岡クラフトパーク
 【WEBサイト】 <https://tsuruoka-matsugaoka.jp>



2 松ヶ岡本陣

明治5年に移築された庄内藩主の休憩所。元は酒井忠勝が拡張整備した高畑御殿を移築したもの。

松ヶ岡開墾記念館 (一番蚕室)

刀を鋏へ替えて開拓した庄内藩士の歴史を伝える施設。2019年4月に展示室をリニューアルし、公開。

おカイコ様の蔵 (三番蚕室)

三番蚕室では蚕の展示飼育を実施。桑の葉のえさやりが体験できる。
 ※6月・9月展示飼育

寄宿舍

クラフト作家の作品販売やワークショップを実施。



3 松ヶ岡蚕室群

明治7(1874)年、開墾した311ヘクタールの全面に桑と茶を植え付け、明治8(1875)年から蚕飼育と製茶を開始した。明治8年から10年の間に建てられた10棟のうち、5棟が創建当初の姿で現存。



4 松ヶ岡蚕業稲荷神社

旧酒井家藩邸の神社を明治8年に松ヶ岡神社として移築、明治28年に蚕業稲荷神社と改称、蚕業の守護神に。

二番蚕室

地元産野菜・果物の直売、軽食を提供。松岡窯陶芸教室では、絵付け・陶芸体験ができる。

シルクミライ館 (四番蚕室)

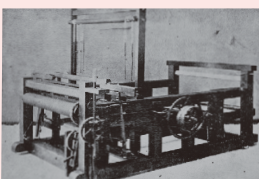
松ヶ岡開墾場の四番蚕室は、鶴岡のシルクを見て、聞いて、触れながら学べる体験型施設。鶴岡のシルク製品を展示・販売している。

5 松ヶ岡開墾士住宅

昭和61年に移築・復元された開墾士の住宅。元は松ヶ岡開墾の組小屋として移された新徴組の住居。現在は総合案内所として機能。

先人の知恵

明治31年、鶴岡の斎藤外市が「斎外式力織機」を発明し、電動式の力織機は、瞬く間に日本の力織機の半数を占めるようになりました。鶴岡にはこの力織機を何百台も持つ織物の会社ができ、就業人口の半数が絹産業に従事するほど、日本でも有数の絹織物の産地となりました。



斎外式力織機



斎藤外市



松ヶ岡エリア(構成文化財)

近代化の原風景 ～商業・産業の近代化遺産～



庄内の御用商人として絹産業を支えた風間家

鶴岡の絹織物産業への投資を主導したのは、旧庄内藩の御用商人で後に鶴岡一の豪商となった風間家でした。風間家7代当主の幸右衛門は、明治29年に「丙申堂」を武家屋敷跡に建設しました。この建物は石置屋根や4つの蔵、広大な板の間と大黒柱などを備え、往時の繁栄を伝えています。

明治期の庄内地方を代表する和風建築です。

7 旧風間家住宅丙申堂



8 風間家旧宅 表門

風間家住宅の南側表門は、鶴岡の武家住宅の屋敷構えを今に伝える貴重な遺構。



9 風間家旧宅 西側板塀

風間家住宅の西側にある板塀は、鉄板葺の小屋根を載せて街路景観を整えている。



10 風間家旧別邸 無量光苑釈迦堂

明治43年に建てられ、昭和27年から9代当主の私邸となった。



11 風間家旧別邸 土蔵

風間家旧別邸内の土蔵は、本邸南側から移築された2階建ての小さな建物。



12 風間家旧別邸 表門

風間家旧別邸南側の薬医門形式の門は、男梁と簷子下見張、鯨型の飾瓦を持つ。



13 風間家旧別邸 中門

釈迦堂玄関脇の小さな門は袖板塀を添え、屋根が屋敷入口を飾る。



14 風間家旧別邸 北門

風間家旧別邸北側の腕木門。2.1m幅で、大きな礎石と金具が特徴。



15 風間家旧別邸 板塀

風間家旧別邸西側の小屋根付き板塀。高さ2.1mで、北に戸口1箇所。



19 庄内藩校 致道館

旧庄内藩主酒井家9代忠徳が土風を刷新して藩政の振興を図るため創設。



20 羽前絹練株式会社

創業当時の釜を用いた絹織物の精練工程が現在も行われている。

絹から見える職人たちの技

羽前絹練株式会社は、明治の創業以来、絹織物の加工全般を手掛けています。生地を筒状に巻いたり二枚重ねにする「生地仕立て」、絹を煮てセシリンを溶かし出す「精練」、染色、すすぎ・乾燥の「仕上げ」という工程で繊細な技術が必要とされます。長年にわたって培われ、受け継がれた伝統の技術によって、現在も国内外に高品質なスカーフ・服地などの洋装用絹織物を提供しています。



精練工程

職人たちの技術と徹底した管理により、高熱で処理された絹は、気品ある光沢と滑らかな風合いを生み出しています。



鶴岡市街地-松ヶ岡エリア (構成文化財)

※A-2クイズ正解:ニシン汁(と、旧藩士の日記に記されています)



N-2

17 旧西田川郡役所

1881年、三島通庸の命で建造。20mの擬洋風建築。桑植付けや養蚕指導に活用された。



N-2

18 旧庄内藩主御隠殿

文久3年、酒井忠発が江戸の中屋敷を移築し、隠居所を建てた。

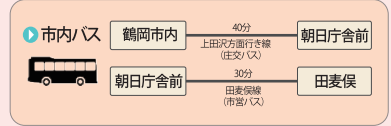
養蚕のある暮らし 多層民家

養蚕が盛んになった明治頃、民家の二階以上が養蚕場として使われ始めました。山間傾斜地で豪雪地帯の田麦保は、建築や増築が難しかったため、生活と作業・養蚕のための部屋が一つの建物にまとめられ、多層構造となりました。

一階は家族の居住用、二階は使用人の居住と作業場、三階が養蚕場、四階が物置として使われました。



交通アクセス(鶴岡市田麦保地区へ)



N-2

16 旧渋谷家住宅

鶴岡市(旧朝日村)田麦保より昭和44(1969)年に致道博物館に移築された多層民家。

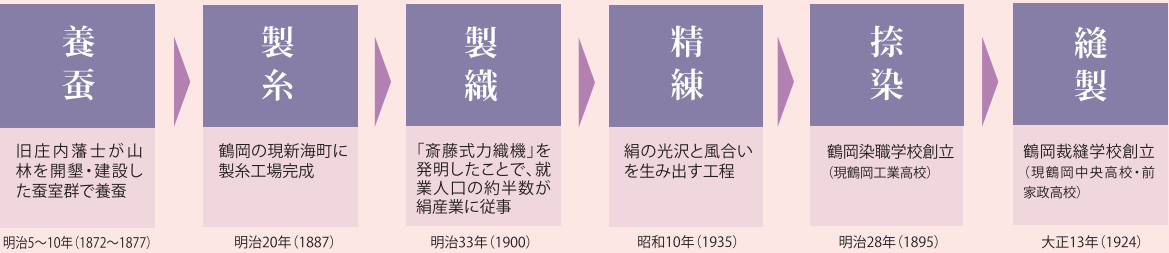


H-2

6 旧遠藤家住宅

鶴岡市田麦保地区に残る江戸時代後期の四層構造の多層民家。「高破風(高はっぼう)」と呼ばれる高窓と兜造が特徴。

日本で唯一 一貫したシルクの生産工程がそろう地域



サムライゆかりのシルク

スタート!

「サムライゆかりのシルク」おすすめコース



ダイジェスト紹介映像
サムライゆかりのシルク
<https://youtu.be/1JL8KoRp-pd0?si=D1q4VJlx9zvD-hB>



詳しくは...》「サムライゆかりのシルク」
【公式WEBサイト】<https://samurai-yukarino-silk.jp/>





荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間

S-2

北前船寄港地・船主集落

北前船は、江戸時代中期から明治30年代にかけて、日本海回りで商品を売り買いしながら大阪と北海道を結んでいた商船の総称です。単に荷物を運搬するだけでなく、寄港地で安い商品があれば買い、それが高く売れる港では積み荷を売りさばきながら、莫大な利益を上げていました。



北前船ゆかりの地 鶴岡

かつて庄内藩の城下町だった鶴岡にも北前船の寄港地は点在しています。特に加茂地区は、城下の生活物資を陸揚げする重要港で、湾に面して廻船問屋が並んでいました。令和元年(2019)には日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」に鶴岡市が追加認定され、11の構成文化財が認定されました。その他にも北前船に関する文化財やゆかりの場所が市内各所にあります。



加茂地区

加茂は城下の生活物資を陸揚げする重要港でした。加茂港から主に米や酒などが運ばれ、塩や砂糖、古着、紙などが移入されました。港に面して廻船問屋が並び、北前船で栄えた当時の町割りが、今でもそのまま残っています。岡町川沿いの白山小路は、昔は港へ向かう小舟が荷を運んでおり、河口の石造りアーチや漁協下の船溜り跡を見ることができます。その白山小路を横切る仲町通りに沿って、石名坂家、秋野茂右衛門家、長澤家など、往時を偲ばせる廻船問屋や商家が軒を連ねています。



加茂エリア(構成文化財)



明治時代の加茂絵図(鶴岡市郷土資料館蔵)



現在の加茂の町並み



R-2

1 加茂港周辺の町並み



秋野茂右衛門家(往時の廻船問屋)



蔵屋敷



間口の狭い家並み

6 春日神社の船絵馬群と狛犬

松前(北海道)を代表する豪商栖原家から奉納された船絵馬と、丹後(京都府)の廻船問屋から奉納された狛犬。



Question

Q3. 加茂泊町に北前船の船員から伝わったとされる、海上安全・商売繁盛を願って奉納された舞は?

※正解は次のページに掲載。



ダイジェスト紹介映像
北前船寄港地・船主集落
<https://youtu.be/iYQMmi9VXG-c?si=DnLAnbP9v7MTAFL>



2 石名坂家住宅主屋・蔵

北前船船主の家屋及び蔵は、航海安全祈禱札や豪華な透透仕上げの内部、伝統的な板壁蔵も同様の豪華さで加茂の伝統を体現している。(内部の一般公開はしていません)



S-2



S-2



S-2

3 浄禅寺の釣鐘と山門

加茂の西の高台にある浄禅寺の釣鐘は、北前船で財を成した商人たちから寄進された。塩の積出港である砂越(現在の兵庫県赤穂市)から北前船で運ばれてきた。釣鐘には、誰がいつ寄進したのかが刻まれており、1990年頃までは行事鐘として使われていた。



S-2



S-2



S-2

9 少林寺の山門

山門は北前船で長い間活躍した船の舟柱や板を再利用して造られている。

10 加茂坂峠道

加茂と庄内各地を結ぶ加茂坂峠道は物流の重要な道であったが難所であったため、北前船交易が盛んであった文化年間に、出羽三山湯殿山派の僧であった鉄門海によって新道が開削された。



8 龍宮寺の本堂と水舟

本堂は北前船船主の石名坂金六が再建したもので、屋根瓦と本堂前の水舟に名前が確認できる。

5 致道博物館所蔵の北前船関連資料群 V-3

鶴岡公園の西隣に位置し、鶴岡の歴史や文化を知る上で欠かせない致道博物館。庄内藩の御用屋敷だった場所を博物館として公開しています。国指定重要文化財の旧西田川郡役所や旧渋谷家住宅、旧鶴岡警察署庁舎など、貴重な歴史的建造物が移築されています。

安全と商売の成功を祈って、北前船船主により加茂の春日神社に奉納された船舶模型をはじめ、船絵馬、四爪錨、出船手形、船鑑札、船筆筒などが収蔵されています。



江戸末期の弁才船 実物1/6奉納用船



船絵馬



四爪錨



出船手形



船鑑札



船筆筒



和船の進水の様子を描いた絵馬



和磁石



竹製望遠鏡

7 郷土資料館所蔵の北前船関連資料群 V-3

鶴岡市立図書館に併設された、主に古文書等を中心に取り扱う、文書館的機能を有した資料館。

加茂の廻船問屋と全国各地の商人との取引内容が記録された客船帳や船往来手形、加茂港での積荷の実態がわかる往来帳などの古文書のほか、港絵図や船筆筒、印章類、船旗など、関係資料が数多く所蔵されています。



加茂湊での口銭
「諸口銭蔵鋪定法書」



明治6年往来帳
加茂湊への船の出入り・積荷内容



加茂の問屋「諸国御客帳」

北前船で運ばれていたもの

大阪では3月に米を、北海道では8月にニシンや昆布を積んで往復します。途中、北海道で必要な縄や鍋、釜など安い品を買い、高く売れる場所で荷を売りながら航海するのが「買積船」でした。

塩・砂糖・古着
紙など

加茂湊

米・酒など



加茂に寄港する北前船



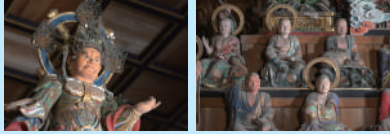
米俵を運ぶ(模型船)

※A-3クイズ正解：大黒舞。保存会が復活させ、十数曲の謡に合わせ、大黒様と恵比寿様が舞います。

善寶寺五百羅漢堂

加茂の北東にある善寶寺は、海の守護神・龍神の寺として全国的に知られており、四季を問わず多くの参拝者が訪れます。五百羅漢堂は北前船で財をなした商人たちの寄進によって建てられたお堂です。安置されている531体の仏像も同じく寄進により作られました。2015年、国の登録有形文化財(建造物)となりました。

4 善寶寺五百羅漢堂と燈籠群 T-1



加茂水族館のグルメ

館内のレストランでは、日本海を一望しながら旬の海鮮料理を提供。



北前船が運んだ食材を使った「北前膳」も味わえます。

鶴岡市加茂水族館
☎ 0235-33-3036



荒崎灯台

加茂水族館脇に建つ、白亜円形の小型灯台で、日本海や鳥海山が望まれる絶景ポイント。



鶴岡市街地-加茂エリア(構成文化財)



11 雛人形・雛菓子

城下町鶴岡には、北前船によって上方から、参勤交代等によって江戸から、様々な物資と文化が流入し、京と江戸、東西の雛文化が同時に成立・融合している。鶴岡市内の多くの旧家には、秀逸な雛人形や雛道具が伝わっており、北前船で運んだことが墨書された収納木箱なども残されている。

また、雛人形に供えられる雛菓子も京と江戸の菓子文化から独自の発展を遂げ、盛菓子や生菓子で様々な縁起物や在来野菜・果物などが職人の技によって作られた。

高館山(標高274m)



山頂の展望台から望む加茂の街並みと日本海の大海原が絶景。

北前船寄港地・船主集落

ココもぜひ見てね!

加茂水族館

クラゲの展示種類世界最大級を誇る人気の水族館。色とりどりの様々なクラゲが漂う様子はとても魅力的。他にも庄内の淡水魚・海水魚・アシカ・アザラシのいる海獣エリアなど、楽しさ満載。



加茂レインボービーチ

人工の磯場と砂場が整備された海水浴場。車で海水浴場の目の前まで進入可能。

詳しくは...》鶴岡市日本遺産推進協議会

事務局: 鶴岡市観光物産課
☎ 0235-35-1301

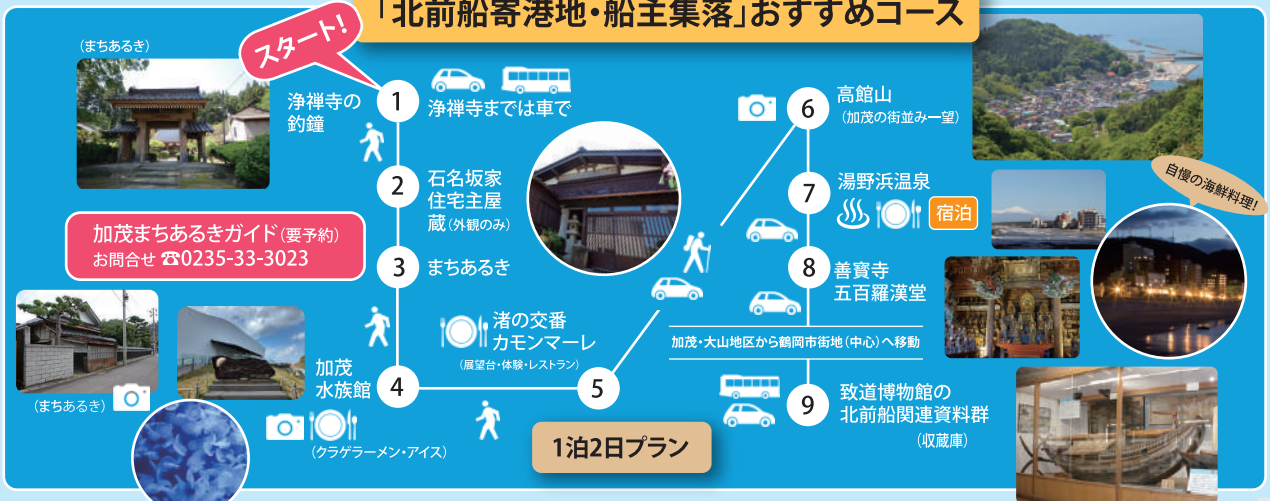


▲ 鶴岡市HP



▲ つるおか観光ナビ

「北前船寄港地・船主集落」おすすめコース



つるおか観光マップ



交通アクセス

JR	東京駅	上越新幹線 2時間	新潟駅	羽越本線特急 2時間	鶴岡駅			
飛行機	羽田空港	1時間	庄内空港	自動車・バス 25分	鶴岡			
	伊丹空港	1時間10分	羽田空港	1時間	庄内空港			
自動車	練馬IC	4時間20分 関越→北陸 →日本海東北自動車道	朝日まほろばIC	55分 国道7号	あつみ温泉IC	20分 日本海東北自動車道	鶴岡西IC	
	川口IC	4時間分 東北自動車道	村田JCT	30分 山形自動車道	山形	35分	月山IC	20分
			鶴岡IC	10分 山形自動車道	庄内あさひIC	10分 山形自動車道	湯殿山IC	20分
高速バス	東京	8時間30分	鶴岡	2時間30分	鶴岡	山形	1時間30分	鶴岡

交通のご案内

